

仕様

| | |
|---------------|--|
| 電 源 | AC 100V 50/60Hz 共用 |
| 消 費 電 力 | 5 W |
| チ ャ ン ネ ル 数 | 2 チャンネル(録音再生切換) |
| 入力インピーダンス | 50kΩ |
| 基 準 入 カ レ ベ ル | 150mV(アドレス基準レベル) |
| 基 準 出 カ レ ベ ル | 150mV |
| 負 荷 インピーダンス | 10kΩ 以上 内蔵発振器 1kHz 150mV(アドレス基準レベル) |
| 周 波 数 特 性 | エンコード(REC), デコード(PLAY)において20Hz~20kHz±1dB |
| 入力換算ノイズ | -100dBm以下 |
| 歪 率 | エンコード(REC) デコード(PLAY)において0.15%以下(アドレス基準レベル) |
| ア ド レ ス 効 果 | 最大録音レベル(1kHz) 約7dB改善 ノイズレベル(10kHz)30dB以上低減 (1kHz)20dB以上低減 (100Hz)17dB以上低減 歪率(400Hz,0dB)約2分の1に改善 |
| 入出力ジャック | エンコード INPUT (AMPLIFIER RECへ) (REC) REC (DECK LINE INへ) デコード PLAY (DECK LINE OUTへ) (PLAY) OUTPUT (AMPLIFIER PLAYへ) ACアウトレット 100V 150W |
| 外 形 尺 法 | A D - 3 , 3 S 420(幅)×57(高さ)×205(奥行) A D - 15 , 15 K 257(幅)×54(高さ)×206(奥行) (ゴム脚, ツマミ含む) |
| 重 量 | A D - 3 , 3 S 2.3kg A D - 15 , 15 K 2.1kg |
| 付 属 品 | 接続コード(PIN-PIN) 2 調整用ドライバー 1 |

* 本機の仕様および外観は改良のため、予告なしに変更することがあります。ご了承ください。



東京芝浦電気株式会社
音響事業部 オーディオ営業部
〒104 東京都中央区銀座5-2-1(東芝ビル内)
TEL. (03) 574-5235

| | | | |
|--------|---|---|---|
| ご購入年月日 | 年 | 月 | 日 |
| ご購入店名 | | | |
| TEL | | | |

お客様へ…おぼえのため、ご購入年月日、ご購入店名を記入されると便利です。



AD-3
AD-3S
AD-15
AD-15K

adres (アドレス) ユニット取扱説明書

- 保証書を必ずお受けとりください。
- このたびは、オーレックスアドレスユニットをお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。お求めのアドレスユニットを正しく使っていただくために、お使いになる前に取扱説明書をよくお読みください。また、お読みになったあとは、必ず保存してください。

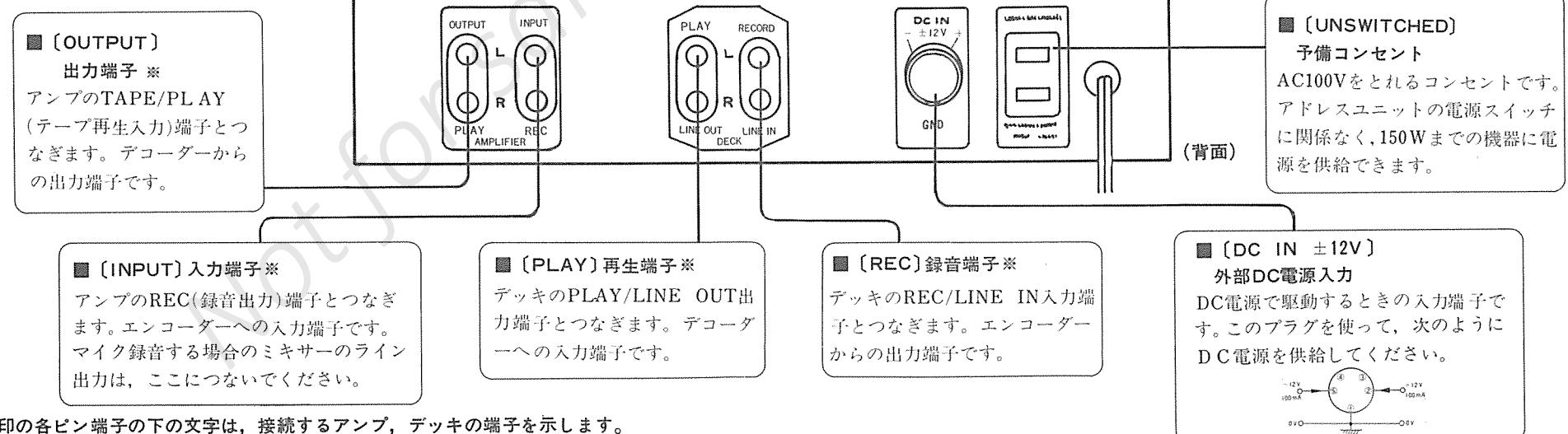
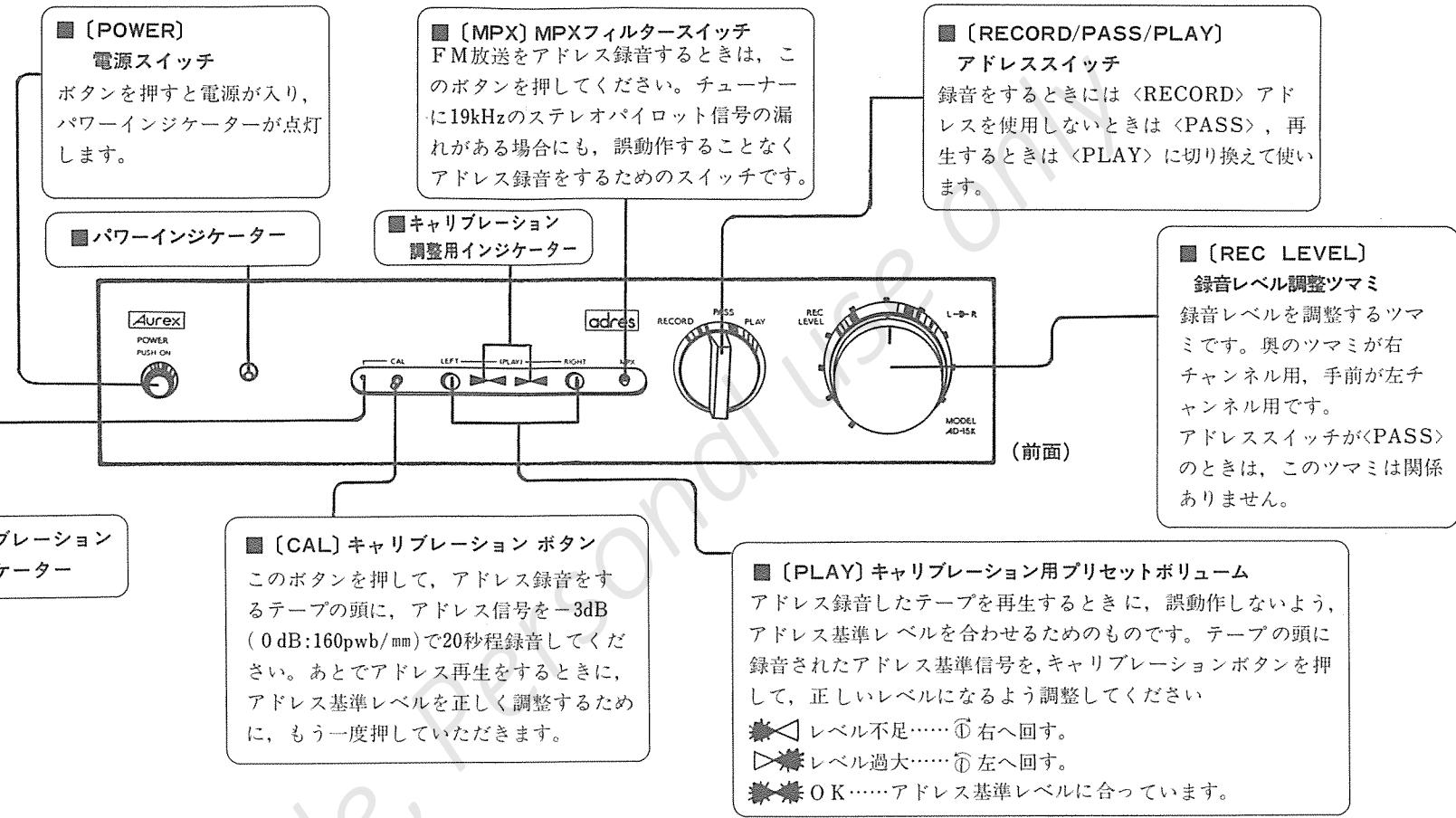
各部のなまえとその働き

このイラストはAD-15です。

●各モデルの大きな相違点は次のとおりです。

①横巾 420mm AD-3 / 3S
257mm AD-15/15K

②フロントパネル色
黒 AD-3, AD-15K
銀 AD-3S, AD-15

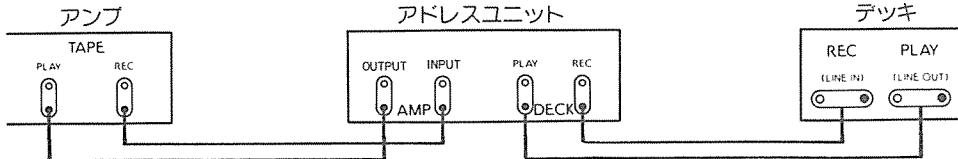


※印の各ピン端子の下の文字は、接続するアンプ、デッキの端子を示します。

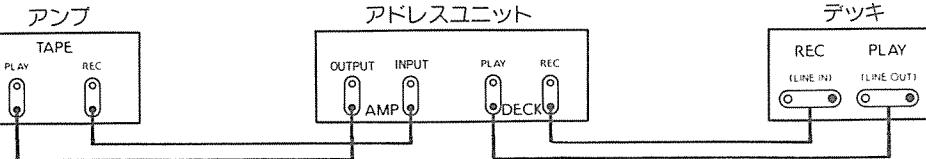
使いかた

1.つなぎかた

まず下図のように結線してください。



まず下図のように結線してください



○付属のピンコードを使って、図のように確実につないでください。

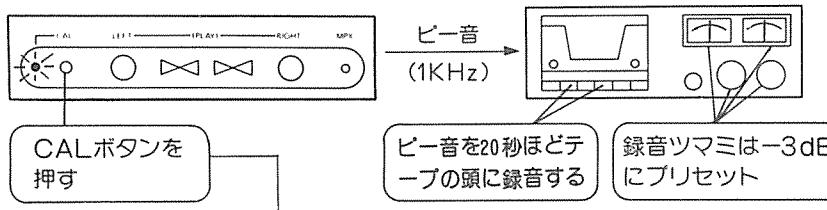
○ピンコードは赤いプラグを右〈R〉チャンネル用、黒いプラグを左〈L〉チャンネル用と決めておくと、接続ミスが防げます。

2.レベル合せ (CAL)

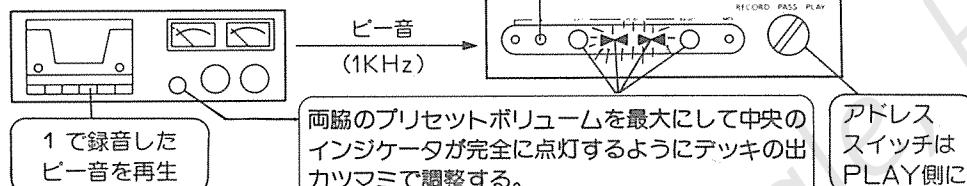
アドレス録音されたテープの互換性を保つために
レベル合わせが必要です。

お使いになるデッキとのレベル合わせをしておきます。

1.ピー音(基準信号)の録音



2.ピー音の再生



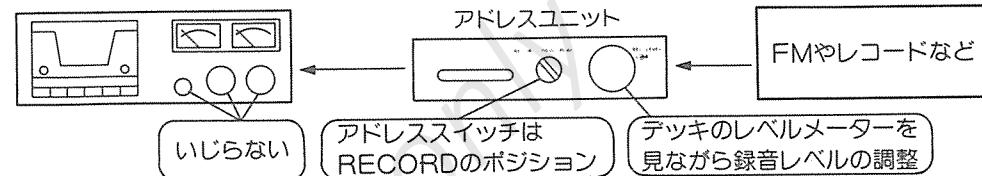
左右の微調整を行うときやデッキの出力ツマミのないものについては、プリセットボリュームで調整してください。

以上でレベル合わせは完了です。CALボタンを元に戻してください。なあ、一度合わせたデッキ側の録音ツマミと出力ツマミは調整後動かさないでください。

- 出力調整ツマミによってレベルメーターの指示が変わるデッキの場合は、基準信号を再生したとき-3dBとなる点に、出力調整ツマミをプリセットしてください。
- 中央のインジケーターが時々点滅することがありますが、そのときは、デッキのヘッドを掃除したり、テープの種類を変えるなどしてご使用ください。
- デジタルメーターで-3dBのレベルをプリセットする場合、録音ツマミを徐々に上げながら、-3dBの発光ダイオード(LED)が点灯するように調整してください。(レベルメーターに-3dBの目盛がないときは、0と-5dBの中間点で合わせてください。) このピー音を再生したときL/Rでレベル差があることがあります、アドレスユニットのプリセットボリュームで補正しますので性能には問題ありません。
- ドルビーレベル(■マークでメーターに指示されているレベル)が、メーターのOVU(通常のデッキは+3VU)であるデッキは、メーターの-6VUの点にCALのレベルを調整してください。
- DOLBYと■は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

3.録音開始

録音レベルの調整は、アドレスユニットの録音ツマミで行ってください。



- レベル合わせのときに録音したアドレス基準信号は、再生時または他のデッキでレベル合わせするときのために、消さないでおいてください。
- アドレス録音しているとき、デッキのレベルメーターはエンコード(圧縮)された信号で振っていますので、振れかたが小さくなります。
- VUメーターなら-15~-20dBくらい、ピークメーターなら大きくても-5dBくらいのレベルセットをすると、S/N比も音質も良い録音ができます。
- テープデッキのヘッドホーンジャックでモニターしますと、エンコードされた信号を聞くことになります。正しい音をお聞きになりたいときは、アンプの〈SOURCE〉ポジションでモニタしてください。
- FM放送を録音するときには、19kHzのMPX(ステレオパイロット)信号による誤動作を防ぐため[MPX]スイッチをON(押す)してください。

4.再生

アドレススイッチをPLAYに切換えてから再生してください。

- 再生レベルの調整はテープデッキの出力調整ツマミではなく、アンプの音量調整ツマミで行ってください。テープデッキの出力調整ツマミを動かすと、プリセットしたキャリブレーションレベルが変化して、音質が損なわれることがあります。
- アドレス基準信号(ピー音)のレベル調整は、このときに行ってもかまいません。

5.パス (PASS)

- アドレス録音、再生しないときはアドレススイッチは<PASS>にしてください。全ての操作はデッキだけで行えます。

6.ダビング

- アドレス録音したテープを他のデッキにダビングする場合は、<PASS>にしてアドレス録音の今までダビングすると、雑音の少ない録音ができます。ただし、そのとき、デッキ相互間の(2.レベル合せ)と同様にキャリブレーションレベルは正確に合わせてください。

ご注意

- アドレスユニットはオープンデッキにも使えます。より性能の良いデッキに使うほど、アドレスの効果は増します。
- テープデッキの周波数特性がよくないと、アドレスをかけたときよい音でお聞きになれないことがあります。いつもヘッドの汚れなどには気をつけ、クリーニングを行ってください。
- ハイファイテープなど質の高いテープを使い、テープデッキのバイアスやイコライザーもそのテープに合っていますとアドレスの効果は最大に発揮されます。テープセレクターの位置を間違えないようにしてください。
- アドレスはテープへの録音・再生の過程で生ずるヒスノイズなどを低減するのですから、入力信号にすでに含まれているノイズは減らせません。質の高いソースを選びますと、アドレスの効果は最大に発揮されます。
- 場合によってハム音が出た場合、デッキやアドレスユニットのコンセントの差し込みかたを逆にしたり、置き場所を変えてみてください。
- 3ヘッドのデッキと組み合わせて同時モニターするときは、2台のアドレスユニットをご使用ください。